

サークルから体育各部への昇格にみる組織変化の一考察
～早稲田大学少林寺拳法部の事例から～

A study of structural changes to the promotion of Intercollegiate Athletes from Intramural Club
-The Case of the Waseda University Shorinji Kempo Club-

1K09B148-1 中村 淳

指導教員 主査 作野 誠一 先生 副査 志々田 文明 先生

【目的】

筆者は、大学に入学後、体育各部のひとつである少林寺拳法部(以下、少林寺拳法部とする)に入部した。この部は、筆者が入部した2009年4月にサークルから体育各部への昇格を果たし、早稲田大学競技スポーツセンターに所属する体育各部としての活動を開始した。本研究では、大学運動部の経営資源に注目して、サークルであった少林寺拳法部が体育各部に昇格するプロセスにおいて、経営資源がどのように変化したのかについて明らかにすることを目的とする。

【方法】

本研究では、主に少林寺拳法部に関する文献調査及び少林寺拳法部数名からの聞き取り調査を行った。第二章の「早稲田大学少林寺拳法部について」では、まずサークルと体育各部の違い、少林寺拳法とは何かについて説明し、少林寺拳法部がサークルから体育各部に昇格するまでの歴史、大会成績について述べた。第三章の「経営資源からみたサークルから体育各部への変化」では経営(人的資源、物的資源、資金的資源、情動的資源)資源の変化を記述し、第四節の情動的資源では3人の主将にインタビュー調査を行った。最後の第四章の結論ではここまでの調査のまとめを行い、今後の少林寺拳法部の課題について述べた。

【結果と考察】

まず人的資源については、入部者がサークル時と体育各部を比較して、約2倍に増えていることが目立つ。また入部者の中でも高校までに優秀な成績を収めた少林寺拳法経験者が増えている。

物的資源については練習場所が記念会堂になり、より広く安定した練習場所が利用できるようになったこと、またスポーツ医科学クリニックによる体調管理の充実もサークル時には全くなかったことで、大きな影響があると推測される。

資金的資源については資金獲得方法がこれまでの学生生活課からの課外活動補助金のみであったものが、体育各部になったことで各部補助金、スポーツ振興協議会・補助費、OB援助費と3つになり、資金も大きく増えた。

情動的資源については行事やイベントに変化はないが、体育各部になったことで、より大会に臨むモチベーションが増加している。

表 経営資源の変化

資源	サークル	体育各部
人的資源	毎年4名前後の入部者	10名前後の入部者、高校までに優秀な成績を収めた経験者の増加
物的資源	練習場所が狭く、時間制限もある	練習場所、練習時間の増加
資金的資源	補助金が課外活動補助金のみ	各部補助金、スポーツ振興協議会・補助費、OB会援助費の3つに増えた
情動的資源	体育各部昇格により、モチベーションの増加	

今後、少林寺拳法部が更なる発展をするために部員の意見からも考慮し、次のようにまとめた。

1. 人的資源:野球部やラグビー部蹴球部のような人気のある体育各部と違い、少林寺拳法部は部員数、特に優秀な新入生部員の確保は不安定である。優秀な新入生確保のためにまだ認知度が低い推薦制度について言及した。

2. 物的資源:部室においては、全部員が各自の荷物を置いても、部員が部室に収まることのできる広さの部室がほしいとの声がきかれた。また練習場所においては、普段少林寺拳法部が利用している記念会堂は、バスケットボール部、バドミントン部、応援部など多くの運動部が使用するため、記念会堂を利用できないことがある。そのためか少林寺拳法部専用の練習場所がほしいという意見が部員から多く聞かれた。

3. 資金的資源:サークル時に比べて補助金は増えたが、まだ資金が足りないという声が多く聞かれた。近年は、部員数が年々増えてきており、支出が増えたためだ。体育各部昇格から日が浅い少林寺拳法部は、補助金制度を十分に利用できていない。これからの大会成績次第では、これらの補助金が期待できると推測される。

4. 情動的資源:体育各部昇格により部員のモチベーションの変化が起こったが、このモチベーションを維持していくことが少林寺拳法部の更なる発展につながると推測される。

【まとめ】

今回の研究から体育各部は、経営資源の点で恵まれており、すばらしい環境のもとにあるということをあらためて感じた。サークルの中には体育各部と同じような活動をしなが、サークルであるがために十分な支援を受けられない組織も少なからずある。体育各部は恵まれた環境・活動条件に驕らず、練習に打ち込みさらなる好成績を残すことに努めていくべきだと考える。